

11. 福知山市 MALUI 連携事業

渡部 凌空

1. 概要

今年度、文化情報学研究室では、地域貢献型特別研究費（ACTR）「京都府北部の MALUI 連携による文化資源を活かした地域づくり」（研究代表者：東昇）の一環として、福知山市において、2022 年から継続実施している福知山市史収集文書の日録作成と京都府立福知山高等学校を訪問し資料の現状調査、土曜講座を行った。

調査参加者 東昇（教員）、長谷川巴南（博士前期課程 2 回生）、渡邊幸奈（4 回生）、小島慧音、渡部凌空（以上 3 回生）、和田茜（2 回生）、上武恒介、高尾悠冬（以上 1 回生）

2. 内容

福知山市史収集文書日録作成：同研究室では、2022 年より福知山市史編纂時に収集、撮影された文書の画像データから日録作成を行っており、今年度も同様に 520 点進めることができた。今後は、文書の概要・総点数を把握し、近世文書を中心に日録作成を進める予定である。

福知山高校資料調査・土曜講座：2023 年 7 月 28 日、福知山高校所蔵資料の現状調査・概要確認を行った。同校所蔵資料は社会科クラブや在任していた社会科教師によって収集されたもので、現在は郷土資料室と図書館書庫に収蔵されている。郷土資料室には考古資料、学校関係資料、近世の資料等があり、図書館書庫には近世から近代の地方文書、古典籍、広開土王碑拓本等が収蔵されている。地方文書は、文書群としては松本家文書と土師村文書が伝来しており、本調査では特にその残存状況と保存状態を確認し、文書撮影を行った。明治初期の史料には福知山藩独自の年貢徴収制度「夏立」に関する帳簿が含まれており、近世福知山藩の藩政について知ることができる。

2023 年 12 月 16 日に同校実施の土曜講座で授業を実施し、高校付属の中学生、及び高校生を対象に、所蔵史料を使用して、史料の撮影、日録作成を行った。文理問わず歴史や古文書に興味のある生徒 9 名が参加し、古文書に実際に触れながら大学の古文書調査や地域の歴史について理解を深める貴重な機会となった。なお土曜講座は来年度も実施予定である。



写真 1 土曜講座の様子

編集後記

フィールド集報の組版作業は、歴史学科文化遺産学コースの考古・建築・地理・文化情報の合同実習メニューとして学生が Adobe 社の InDesign を利用しておこなっている。

今年度は、3年ぶりに多様な場所・フィールドで調査をおこなうことができた。調査時だけでなくその後の作業においても多くの方々からご協力を賜った。ここに改めてお礼申し上げる。

海外の調査も徐々にではあるが再開されるようになった。来年度はまた違うところに行きたいと思う今日この頃である。(き)

京都府立大学文学部歴史学科

フィールド調査集報 第10号

編集・発行 京都府立大学文学部歴史学科

〒606-8522 京都市左京区下鴨半木町 1-5

発行日 2024年3月30日

印刷 株式会社 北斗プリント社

〒606-8540 京都市左京区下鴨高木町 38-2
